

「ネットで安心を届けた全校児童の2泊3日の離島体験」

三重県津市立太郎生小学校

実践内容

平成21年7月8日から10日までの2泊3日、本校の全校児童が答志島での宿泊体験学習を行った。1年生の子どもが親元を離れ、2泊も離島で過ごすことは考えられない。学校へ信頼を寄せる保護者に、安心を届けるべく答志島からリアルタイムでメールやホームページで発信し続けた。児童・保護者・さらには教職員にとっても、まさに「夢のような2泊3日」の体験学習が可能となった。

実践結果（今後の課題）

学校行事としてキャンプをすることは珍しくはない。しかし、2泊となると話は別である。果たして2泊の全校行事が可能なのか。高学年の保護者は賛成してくれるだろうとしても、低学年の保護者がどんな考えを持つか見通せなかった。そこで、低学年の保護者に意見を求めた。メールでお願いしたら、ほとんどの方からメールで意見が届いた。「今日的」といえる。手書きをするよりも保護者にとっては「楽」なのだろう。これらの意見を見て、「全校児童による2泊3日」を決めた。学校便りや保護者が集まった機会に、そのことを説明したところ、異論はまったくなかった。

○学校への信頼

3日間子どもを学校の職員に預けるという判断をすべての保護者がしていただいたということは、学校教育が順調だという証に他ならない。学校が信頼されているからこそ、保護者の理解を得られたわけだし、そもそも保護者と学校との信頼関係がしっかりとしているからこのような行事を計画できたともいえる。さらに付け加えると、集団のルールを守ることができる子どもたちであった。つまり、ルールを守れる児童、学校を信頼している保護者がいたからこそ、私たち職員もこの行事

に踏み切ったといえる。しかし、そうではあったも保護者の不安はあった。事前に医療機関の体制を調べたり、健康などのアンケートを取り、心配なことがある保護者とは面談して不安点を聞き、個別に対応した。活動内容や持ち物についての保護者への説明会は2回行った（地区懇談会などの機会を活用した）。このように事前に万全を期したつもりである。

○メールによる一斉送信を16回

現地（答志島）からの発信は「メールによる一斉配信」および「ホームページの更新」という2つのメディアを使った。ホームページはカラー写真が見られるという大きな特徴があるが、全保護者がネットにアクセスできるという環境ではない。ホームページを見られない保護者もメールなら受けられる。また、ホームページだとアクセスしないと更新しているかどうか分からないが、メールだと携帯電話などに届く。そのため、「メール配信」にも力を入れた。2泊3日中、16回のメールを送った。

○ホームページの写真は150枚アップ

メール送信は、システムの関係で写真を送ることができない。ホームページの更新は、携帯電話を使ったリアルタイム更新と宿からパソコンを使った更新の2つの方法で行った。携帯電話での更新も写真を重視した。初日は25枚、9日は11枚、10日は14枚の写真を送った。これはすべて携帯電話から送った。夜はノートパソコンを使って宿からデジタルカメラの写真をアップした。枚数は8日が44枚、9日が55枚。携帯電話から更新した内容は、ほんの1、2行程度の文章と写真だけである。たったそれだけの内容であっても、学校から遠く離れた離島での活動を小学生がしているのである。その様子を、ほぼリアルタイムに写真付きで知ることができる保護者の喜びと安心は、私たちの想像を超えていた。だからこそ、驚異的なアクセス数となった。



○宿泊行事を終えて

いくつもの声が保護者から届いた。保護者にはホームページについての意見を求めたわけではない。それにもかかわらず、宿泊体験の意見をいただいた方のほとんどは、ホームページのことに触れている。

引用したい（資料）。

備考（実践の参考となる公開中のホームページアドレス、写真、資料等）

宿泊体験の様子

<http://www.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2410004&optiondate=200907&no=2>



PR（特徴・工夫・努力した点など）

以下、学校便り「たろうっこ」に書いた記事を

「スクール55」

<http://www.school55.net/>

資料・学校便り「たろうっこ」

通常、太郎生小のホームページアクセス数は70前後です。昨年4月の開設以来の平均アクセスは50です。アクセスというのは、ホームページを見た人数を正確に表すわけではありません。短時間にアクセスしても、それはカウンターに反映されません。

過去の最高は100を少し超えたところでした。ところが、7月8日、つまり答志島へ出発した日は233です。これには驚きました。翌9日はさらに増えて261。そして戻ってきた10日は258です。実際に太郎生小のホームページをクリックしていただいた回数はこの数倍を超えるでしょう。

そして、10日以後は100を超えることはあるというものの、通常のアクセス数にもどりました。携帯電話のアクセスも増えています。3日間で200を超えました。2泊3日の全校宿泊体験に送り出していただいた保護者の皆さんは一見冷静ではありましたが、ホームページや携帯から何度も何度もアクセスしていただいています。それほど「心配」であり、情報を求めているといえるでしょう。

アクセス数は増えるだろうとは思っていましたが、私の予想をはるかに超えるカウントとなりました。「便りのないのはよい便り」とは古来から言われており、一面の真理ではありますが、それは今日の高度情報化社会には当てはまらないところがあります。「正確な情報こそが安心できる」ということです。

幸い携帯電話からメールの一斉送信が簡単にできます（2分ぐらい）。また携帯電話からのホームページの更新も出来ます。これも2分程度の時間で可能です。だからこそ、浮島という無人島からでもメールを送ったり、ホームページの更新をすることが可能でした。

特に「学校連絡メール」には力を入れました。ホームページを見ることができない保護者も、連絡メールなら受け取ってもらえます。3日間のそれぞれの要所で16回の連絡メールを送りました。メールが届くたびに子どもたちの活動を想像していただいたのではないかと考えています。そうであればうれしいことです。

メールやホームページによる情報発信は今回の答志島宿泊体験においてはかなり重要な意味を持っています。単にサービスとしての発信ということではなく、情報を刻々と保護者のもとに届けられるということも、全校児童の宿泊体験を決めた要因の一つです。

